

1. 調査結果概要表

作成日 平成 20年 2月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	3671200255
法人名	有限会社 敬友会
事業所名	グループホーム 花乃苑石井
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70-3 (電話)088-674-0216

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 8日

【情報提供票より】(平成20年1月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 8人,非常勤 0人,常勤換算 さくら4人,ひまわり4人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	51 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・恵美クリニック ・田宮メンタルクリニック ・吉積歯科医院
---------	-------------------------------

徳島県 グループホーム花乃苑石井 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者が管理栄養士の資格をもっており、食にこだわりを持ち栄養管理がされている。また、朝、昼、夕、3時のおやつを毎食、写真に撮り、誰でも見えるようファイルにしている。毎月利用者家族に送付する生活状況は日々を一行の日誌にまとめ、状況変化、重要事項には蛍光ペンでアンダーラインを入れるなどされ、一人ひとりの状況をきめ細やかな支援とアイデアを活かした報告がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念、ケアサービス、運営体制、各々の項目で複数の改善課題があったが、注意の必要な物品の保管、管理方法の明文化のみが未改善で、その他の項目は全て、全職員間で話し合わせ改善が図られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員で話し合い、自己評価に取り組み作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は設置がされていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置や苦情受付担当者を置いている。また、外部の公的相談窓口があることも周知している。意見、苦情等は、運営に活かしていけるよう取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は自治会に加入し、地域の一員として地域活動や行事への参加、地元の人々との交流、他の福祉施設(近隣)との行き来等活発に交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスとしての役割を理解し、事業所独自の理念をつくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は理念を共有し、実践に向けよく話し合っており、理念を反映した支援がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に入会し、地域の一員として地域活動、行事等に参加し、地元の人々との交流も活発にされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価、外部評価を実施する意義を理解し、全職員で話し合い自己評価の作成、改善課題に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は設置されていない。	○	早急に運営推進会議を設置し、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターを月1～2回訪ね、書類の提出や課題相談等連携を図り、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納状況の報告、生活状況の報告を毎月定期的に郵送し報告されている。金銭出納は確認印、サインがされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は意見箱の設置やホーム関係者、外部者へ表せる機会を周知し、意見、苦情等は、運営に活かしていけるよう取り組まれている。しかし、出された意見等が記録に残されていない。	○	家族等から出た意見等は、明確に記録に残されるよう取り組まれない。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者にとって馴染みの職員が継続的に支援できるよう配慮されている。開所以来職員異動は無く、離職者もほとんどない。離職があった場合には利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者、職員を段階に応じて育成するため計画を立て研修を受け、内部で報告書の回覧や報告会が実施されている。しかし、全職員に回覧された確認印等がない。	○	研修内容の共有、周知徹底を図るため確認印、サイン等の仕組み作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流に関しては、管理者、職員、利用者と各々の分野で相互訪問等の交流が図られ、サービスの質の向上、情報の収集等に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスが受けられるよう、家族とよく相談し、体験入所等の利用を勧め利用開始の調整等を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に行事や地域の風習等多くを教えてもらったり、時には思いやりの言葉をかけてもらう等、支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意向の把握が困難な利用者の場合、表情や行動、感情の起伏等の中から把握したり、家族と相談するなどし、本人本位に検討し話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望、必要な関係者の意見、職員間で気づいたこと等、意見を出し合い話し合っ介護計画の作成がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間に応じて見直し、心身の変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画の見直し作成がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族が安心して暮らし続けられるよう、日々変化する状況、要望に応じて通院や外出支援など、必要なサービスを柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけの医療機関を受診できるように情報の伝達を密に話し合い、合意のもと、支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時から重度化、終末期のあり方等について、本人、家族、かかりつけ医、必要な関係者とくり返し話し合い、全員で方針の共有がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者が本来持っているペースや望んでいるペースに合わせて柔軟に対応し、見守るよう努力した支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、季節の食材や一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者、職員と一緒に買い物、下準備や調理、出来ばえを評価しながら全員が同じ物を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日午後に入浴を設定しているが、利用者の体調、気分、希望等に合せ柔軟に対応されていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の習慣、希望、有する力を踏まえて、何がその人の役割、楽しみごとになり得るか把握し、食事の下準備、洗濯物たたみ等々、役割や気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、買い物、外出支援、時には通院の帰りに自宅周辺を回り道したり、馴染の理・美容院に出かけたり、車や車椅子で散策に出かけたりしている。デッキや中庭での日光浴等の支援もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関・居室等には鍵はかけていない。万一と来客のためセンサーは設置しているが、常に利用者を目を配り、ケアに取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震等災害時の総合避難訓練は、利用者、全職員参加し、地域の消防署との連携のもと年2回実施している。自治会の方々には避難時の協力依頼もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事、水分摂取量は一日を通して把握し、内科医と連携し、体調不良で摂取量の少ない時等はタンパク質、ビタミンを含有する補助食品等も併用している。一人ひとりの状態に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者にとって、ゆったりと過ごしたり、一人になったりできる場所が確保され、光や音に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は希望に応じて、畳、フローリングの間を選択され、部屋には自宅で使っていたテレビや家具、寝具、鏡台等がそれぞれに持ち込まれ、自宅さながらの環境づくり、支援がなされている。		